

特集

# 挑<sup>スポ</sup>戦<sup>ーッ</sup>に<sup>エ</sup>声<sup>ール</sup>援<sup>を</sup>を

少し遠くにも感じられる2020年の東京オリンピック・パラリンピック。このまちにも2年後の東京オリ・パラに向けて懸命にトレーニングに励む人たちがいる。今回の特集では、実は身近にいるアスリートとスポーツを裏側で支えるボランティアにスポットを当てたい。

「現状打破」へ  
何事も挑戦あるのみ。

## 市まちづくり大使 真田 卓の挑戦

ハンディキャップを抱えながらも、さらなる高みを目指す車いすテニスの真田卓選手。本市で生まれ育ち、現在は東京パラリンピックでのメダルを目指す彼に話を伺った。

車いすテニスプレーヤー

### 真田 卓の軌跡

- 1985 旧西那須野町に生まれる
- 1998 南小学校卒業
- 2001 西那須野中学校卒業
- 2004 バイク事故で右膝関節の下を切断、その入院中に車いすテニスと出会う
- 2011 本格的に車いすテニスを始める
- 2012 ロンドンパラリンピックに出場ダブルスでベスト8
- 2015 ワールドカップ日本代表ソウルオープン(韓国)シングルス優勝
- 2016 リオパラリンピックに出場ダブルスで第4位
- 2017 スイスオープン シングルス優勝全日本選抜車いすテニスマスターズ優勝(3連覇)
- 2018 ジャカルタ・アジアパラ大会ダブルス優勝シングルス準優勝



さなだ たかし  
真田 卓 選手(33歳)

2011年から世界を目指して本格的に始動。2012年のロンドンパラリンピックではダブルスでベスト8、2016年のリオパラリンピックではダブルスで第4位となる。車いすテニス世界ランク第9位。(2018年11月現在)

**Q1** 車いすテニスを始めたきっかけは？

足を失った19歳のとき、リハビリのため入院していた病院で車いすの友人に誘われたのがきっかけです。その後、仕事をしながら国内の大会に年間3試合ほど出場していました。25歳のときに当時勤めていた会社からサポートしてもらえることになり、ロンドンパラリンピックを目指そうと決心しました。

**Q2** 車いすテニスをやる中で嬉しかった出来事は？

ロンドン、リオと2度のパラリンピックに出場し、自分の努力が結果として現れたことです。また、結果を残すことで応援してくださいる方々に恩返しができ、車いすテニスをしてきて良かったと思いました。

**Q4** 車いすテニスを始めてどんな変化がありましたか？

物事の考え方の幅が広がりました。答えはひとつではないと考えられるようになり、予想もつかないことが起きて冷静に対応できるようになりました。

**Q5** 今後の目標は？

2020年東京パラリンピックでメダルを獲得できるように頑張ります。結果を出すことで、応援していただいた皆さんに感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

**Q6** 読者へのメッセージをお願いします

皆さんに障害者スポーツの魅力を知っていただくための体験イベントなどを各地で開催しています。どんなスポーツがあるのか分からない方は、ぜひ一度イベントに参加してみてください。

そして、興味を持ったスポーツや応援したい選手ができれば、ぜひ会場へ足を運んでいただきたいと思っています。

観戦していただいた皆さんに楽しんでいただければ、今後もひとつひとつの試合に全力で挑んでいきます。

**Q3** これまで挫折をしたことは？

これまで、多くの課題に直面しましたが、「現状打破」を座右の銘にして、何事にも挑戦の精神で乗り越えてきました。

2012年には肩を痛め、1年間悩んだ末に手術を受けました。このときは、良くなるか悪くなるか分からず、苦渋の決断でした。しかし、手術をしてもしなくても不安な気持ちは同じなので、現状を打破しようと手術を決意。

その後は気持ちも前向きになり、リハビリも順調で、復帰まで3カ月と言われていた中、1カ月でコートに戻れました。

### 車いすテニスに挑戦

昨年12月16日には真田選手を講師にお迎えし、市内の子どもたちが車いすテニスを体験しました。部活動でテニスをしている子どもたちも、車いすに乗りながらのテニスに四苦八苦。真田選手に優しくアドバイスをもらいながら、何とかボールを返そうと一生懸命に取り組んでいました。車いすテニス体験の間には真田選手と子どもたちが談笑する場面も多く、笑顔あふれる交流会となりました。

